

北陸圏広域地方計画の推進について 令和2年度の取り組み

概要版

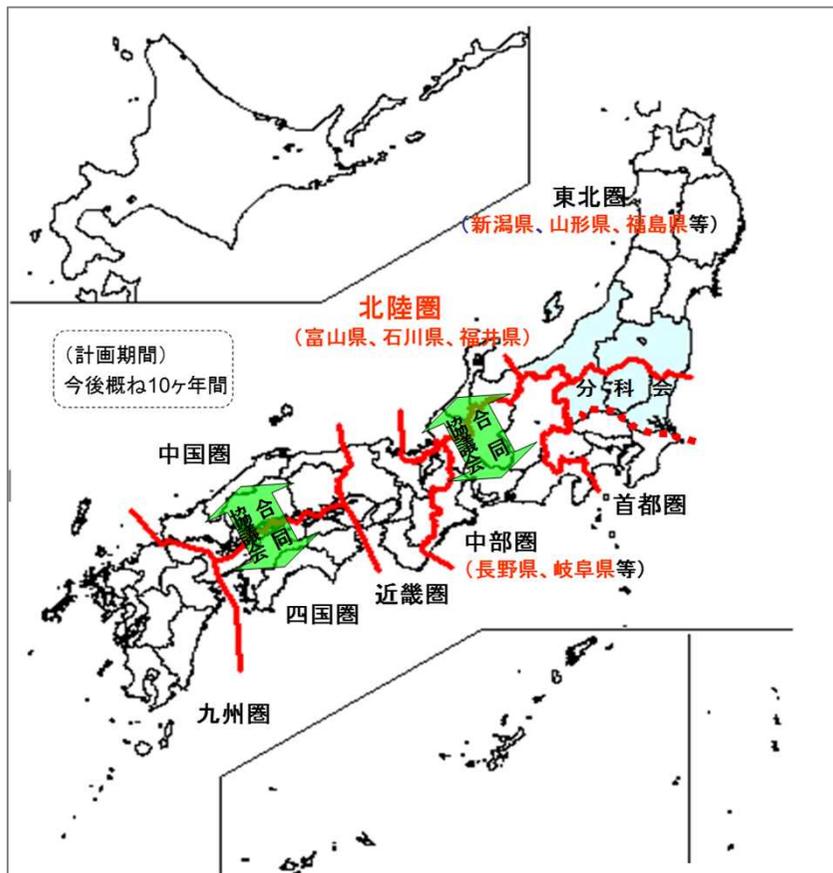
令和4年2月
北陸圏広域地方計画推進室

1. 北陸圏広域地方計画について

北陸圏広域地方計画は、国土形成計画法第9条に基づき、全国レベルの「国土形成計画」を踏まえ各地方ブロックごとに方針・目標・施策を定めるもので、北陸圏の2050年頃までを展望しつつ、今後概ね10ヶ年間の国土形成に係る基本的な計画である。

【北陸圏の位置づけ】

「厳しくも豊かで多様な自然、魅力ある都市と農山漁村及び活力ある産業が共生した、圏域内の連携と国内外との対流・交流により我が国の持続的な発展を先導する、日本海国土軸の中核圏域」として位置づけ



【北陸圏の将来像】

1. 暮らしやすさに磨きをかけ更に輝く 新・北陸
2. 三大都市圏に近接する特性を活かし、日本海・太平洋2面活用型国土形成を牽引する 新・北陸

■北陸における接続型都市形成イメージ

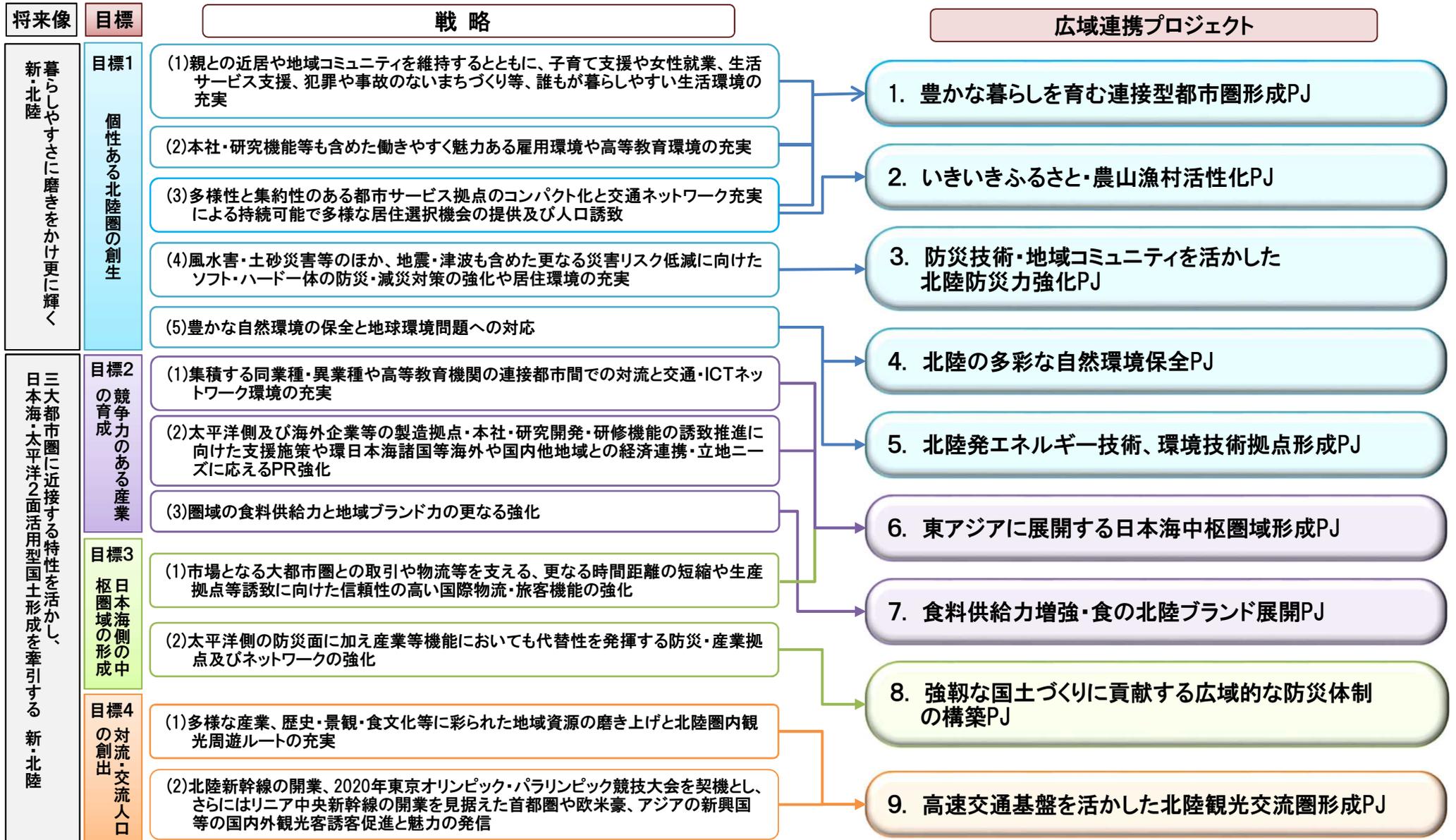


■日本海・太平洋2面活用型国土形成を牽引



1. 北陸圏広域地方計画の体系

北陸圏の将来像を実現するための4つの目標と12の戦略の達成を効率的に推進するとともに、早期かつ相乗的に達成効果を発現、波及させていくため、北陸圏広域地方計画協議会の構成機関等が広域的に連携・協力して以下の9つのプロジェクトに取り組んでいく。



2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

1. 豊かな暮らしを育む連接型都市圏形成PJ(1/4)

美しい自然と豊かな農山漁村に囲まれ、住環境や子育て環境にも恵まれた個性ある都市圏の暮らしの質を高め、北陸新幹線の開業も契機としつつ、近接する都市圏相互の魅力を楽しむことのできる連接型都市圏の形成を推進する。

【計画の具体的取組項目】

(1) 住環境や子育て環境にも恵まれた个性的でコンパクトな都市圏の形成による暮らしの質の向上

【モニタリング指標】

モニタリング指標①: 人口(0-4歳)あたり保育所定員数の割合(%)

北陸圏の人口(0-4歳)あたり保育所定員数の割合は、年々増加傾向を示しており、全国と比較しても高い水準である。



図1-1 北陸圏 人口(0-4歳)あたり保育所定員数の割合の推移 (2021年8月末時点の公表データ)

モニタリング指標②: 合計特殊出生率

北陸圏の全ての県で全国値を上回っている。

出典: 厚生労働省「人口動態統計」

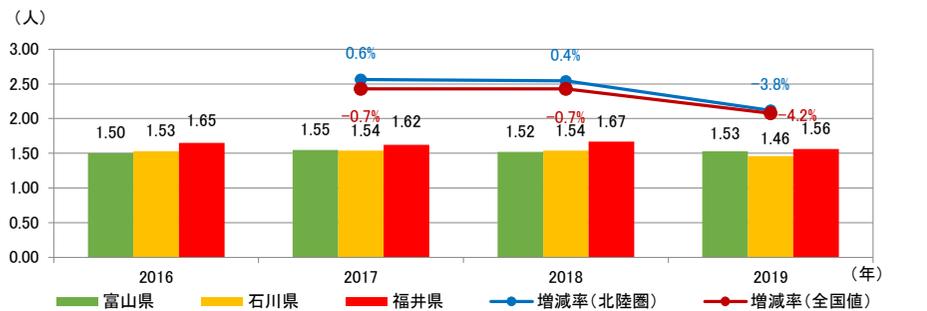


図1-2 北陸圏 合計特殊出生率の推移 (2021年8月末時点の公表データ)

【令和2年度の主な取組】

- ◆金沢市歴史的風致維持向上計画に基づき事業を推進【金沢市】
- ◆ワークライフバランス企業の表彰【石川県】
- ◆とやま子育て応援団【富山県】
 - ・協賛店: 2,098箇所、PRステーション: 84箇所(R3.3現在)
 - ・「お出かけサポート部門」の設置(妊産婦優先駐車場、授乳室等の設備を有するお店等): 304箇所(R3.3現在)
- ◆サイエンス(理数)教育の充実(ふくい理数グランプリ等)【福井県】
 - ・ふくい理数グランプリ開催: 1,708人参加
 - ・南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞授与(小学生5件,中学生5件,高校生4件)
- ◆大学コンソーシアム石川の取り組み【大学コンソーシアム石川】
 - ・いしかわシティカレッジ(単位互換事業の実施)
 - ・石川の大学ガイドブックの作成・配布 20,000部
 - ・出張オープンキャンパス事業の実施(北陸3県の高校)
- ◆「暮らしの道」の安全の推進【北陸地方整備局】
 - ・金沢自転車ネットワーク協議会開催(8月、2月)

取り組み事例: ワークライフバランス企業知事表彰【石川県】

石川県では、県内企業におけるワークライフバランス(仕事と生活の調和)の取組を促進することを目的に、ワークライフバランスの推進に取り組む企業として、県に登録することができる。登録企業については、企業名や行動計画の内容その他の企業情報を県のホームページに掲載され、広くPRされる。また、ワークライフバランスを図るための職場環境の整備に特に積極的に取り組み、優れた成果があった企業を「石川県ワークライフバランス企業」として表彰している。

(左) 登録企業
使用ロゴマーク

(右) 受賞企業
使用ロゴマーク



➤ 令和2年度ワークライフバランス表彰企業数: 6社 ➤ 表彰企業数累計: 87社

出典: 石川県ワークライフバランス企業知事表彰 石川県少子化対策監室 子ども政策課

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

1. 豊かな暮らしを育む接続型都市圏形成PJ(2/4)

【計画の具体的取組項目】

(2) 近接する都市圏相互の魅力を楽しむことのできる接続型都市圏の形成に向けた取り組み

【モニタリング指標】

モニタリング指標：年代別人口

北陸3県における全世代に占める生産年齢人口の割合は、年々減少傾向であるが、その減少率は縮小してきており、全国的にも同様な傾向である。

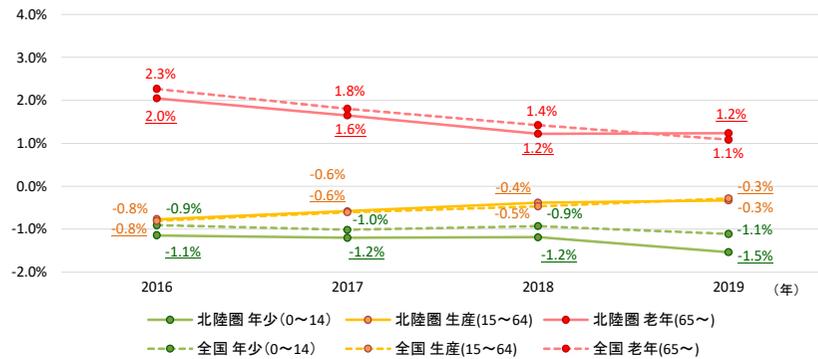


図1-3 北陸圏 世代構成比増減の推移

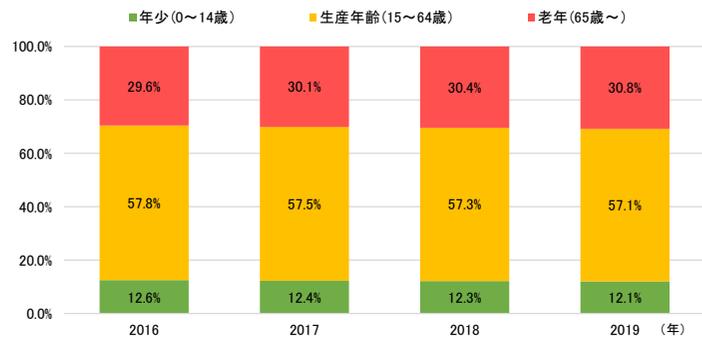


図1-4 北陸圏 世代構成比の推移

出典：総務省「人口推計」
(2021年8月末時点の公表データ)

【令和2年度の主な取組】

◆高規格道路の整備【北陸地方整備局】

- ・能越自動車道(輪島道路、田鶴浜七尾道路)等の高規格道路の整備促進
- ・富山高山連絡道路(猪谷楡原道路、大沢野富山南道路)、金沢外環状道路(金沢東部環状道路、海側幹線(今町~鞍月))等の整備促進

◆「道の駅」と大学の連携【北陸地方整備局】

- ・道の駅「めぐみ白山」と金沢星稜大学との連携(現地調査：8月)

取り組み事例：高規格道路の整備【北陸地方整備局】

○能越自動車道 輪島道路事業の推進

「能越自動車道」輪島道路は、災害時の緊急輸送路と速達性の確保、高速ネットワーク形成による第3次医療施設へのアクセス性の向上を目的とした、輪島市三井町本江から同市三井町洲衛に至る延長約4.7kmの道路整備事業である。

令和2年度は、改良工事を実施するとともに、(仮称)洲衛高架橋上部工事を推進し、令和5年内の開通に向けて着実に事業を推進している。

○富山高山連絡道路 大沢野富山南道路事業の推進

大沢野富山南道路は、一般国道41号の交通渋滞の緩和、医薬品製造業等の地域の産業を支える物流の信頼性向上を目的とする富山市楡原から同市栗山に至る延長約12kmの道路整備事業である。

令和2年度は、引き続き用地買収と改良工事を推進し、早期開通に向けて事業を推進している。

[能越自動車道：輪島道路]



[富山高山連絡道路：大沢野富山南道路]



出典：北陸地方整備局

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

1. 豊かな暮らしを育む接続型都市圏形成PJ(3/4)

【計画の具体的取組項目】

(3) 個性ある都市圏の連携を強化するネットワークの形成に向けた取り組み

【令和2年度の主な取組】

- ◆パーク・アンド・ライドの推進【金沢都市圏パーク・アンド・ライドシステム実施協議会】
 - ・パーク・アンド・バスライド：11箇所
 - ・パーク・アンド・レールライド：4箇所（計315台）
 - ・利用者数：207人
- ◆富山外郭環状道路、金沢外環状道路等の主要都市の環状道路やバイパス等の整備【北陸地方整備局】
 - ・富山外郭環状道路（豊田新屋立体）、高岡環状道路（六家立体）、金沢外環状道路（金沢東部環状道路、海側幹線（今町～鞍月））等の整備促進
- ◆おでかけバス・おでかけ電車・おでかけ路面電車事業【富山市】
 - ・65歳以上の市民が、市内各地から中心市街地へ出かける際の公共交通機関（バス、電車、路面電車）の運賃を100円とするもの。（申込者数：22,851人、延べ利用者数：バス330,984人、電車52,508人、路面電車220,619人）
- ◆水辺空間賑わい創出事業【学習支援船運営委員会（富山県、富山市）】
 - ・中心市街地の貴重な水辺空間である富岩運河環水公園や富岩運河を活用して富岩水上ラインを運航することにより、まちなかの魅力を向上させ賑わいの創出を図る。
 - ・利用者数：33,213人
- ◆グランドプラザ運営事業【富山市】
 - ・グランドプラザ運営事業：まちなかの賑わい広場「グランドプラザ」の管理運営を行う
 - ・稼働率：全日34.7%（平日23.6%、休日58.3%）
- ◆福井城址周辺整備事業【福井市】
 - ・御本丸緑地（福井神社～順化公民館前）整備及び消融雪設備機械の工事が完了した。（御本丸緑地整備工事147m、さく井工事、消融雪設備機械工事）
- ◆北陸新幹線福井駅（東口）拡張施設整備事業【福井市】
 - ・北陸新幹線福井駅（東口）拡張施設新築工事の落札者決定および仮契約の締結
- ◆富山駅付近連続立体交差事業【富山県】
 - ・富山地方鉄道本線仮線設置工事着手

取り組み事例：富山駅付近連続立体交差事業【富山県】

富山駅付近は、あいの風とやま鉄道線等により南北に分断されており、この鉄道と交差する2本の道路が2車線しかないため、駅南北間の交通は阻害され、また駅周辺の効率的な土地利用と一体的な発展に支障をきたしている。連続立体交差事業によって鉄道を高架化することにより、道路の新設や拡幅を行うとともに、駅部での南北を連絡する歩行者専用通路の整備や北口の路面電車化された富山港線（富山ライトレール線）と南口の既存路面電車との接続など、南北一体となったまちづくりを推進している。

平成31年3月までに、あいの風とやま鉄道線（約1.8km）とJR高山本線（約0.7km）が高架化され、令和元年11月に富山地方鉄道本線（約1.0km）が都市計画事業認可を受け、令和2年より富山地方鉄道本線の仮線設置工事に着手している。

【富山駅付近連続立体交差事業：平面図】



【鉄道交差箇所の整備】



出典：富山駅付近連続立体交差事業パンフレット、富山県都市計画課

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

1. 豊かな暮らしを育む接続型都市圏形成PJ(4/4)

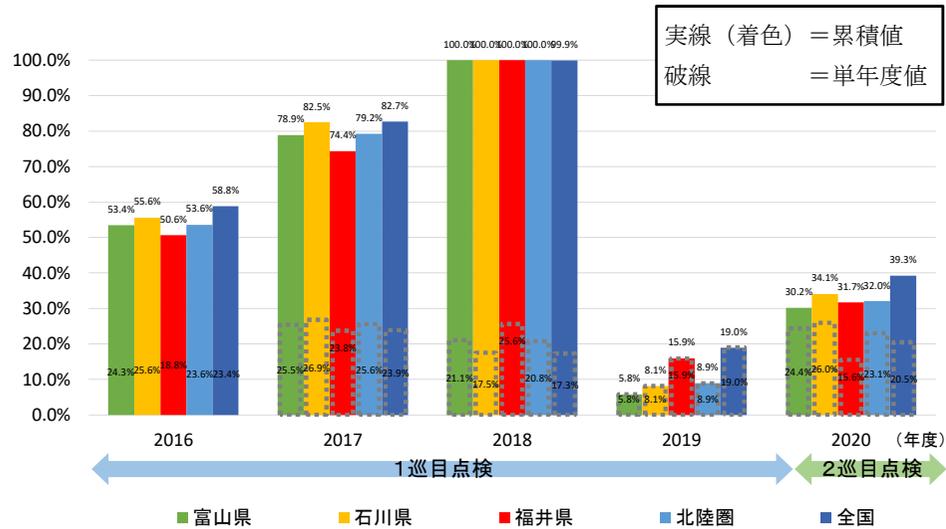
【計画の具体的取組項目】

(4) 公共施設の計画的な管理に向けた取り組み

【モニタリング指標】

モニタリング指標：橋梁の点検実施率

2014年度(平成26年度)から2018年度(平成30年度)までに1巡目点検が完了し、2019年度(令和元年度)から2巡目点検に着手している。北陸3県では、国が管理する点検対象の全橋梁数に対して、2020年度(令和2年度)に約3割の橋梁で点検が実施されている。



出典：国土交通省「道路メンテナンス年報」

図1-5 北陸圏 橋梁の点検実施率の推移（国が管理する橋梁）

(2021年8月末時点の公表データ)

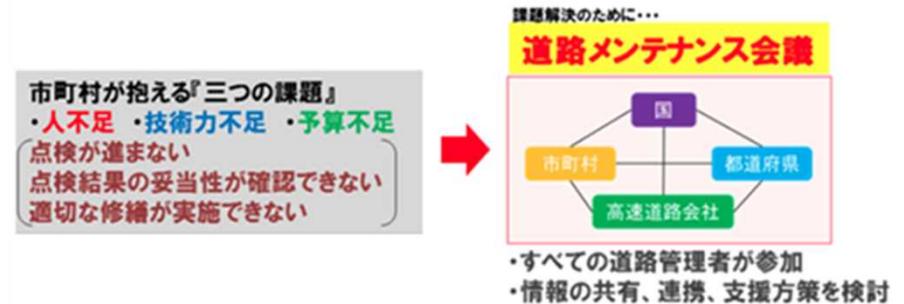
【令和2年度の主な取組】

- ◆道路の老朽化対策の実施【北陸地方整備局、近畿地方整備局】
 - ・富山県道路メンテナンス会議
 - ・石川県道路メンテナンス会議
 - ・福井県道路メンテナンス会議
 - ・新潟県道路メンテナンス会議
- ◆港湾施設の老朽化対策の実施【北陸地方整備局】
 - ・伏木富山港富山地区の岸壁改良事業の推進
 - ・金沢港大野地区の防波堤改良事業の推進

取り組み事例：道路の老朽化対策の実施【北陸地方整備局、近畿地方整備局】

○道路メンテナンス会議の開催

道路施設の点検や補修・更新等を効率的・効果的に行うため、各県で全ての道路管理者からなる「道路メンテナンス会議」を設立し、確実にメンテナンスサイクルを回すための各種取り組みを実施している。



○道路メンテナンス会議の開催状況

- <富山県> 第1回富山県道路メンテナンス会議(R2.8.4)
第2回富山県道路メンテナンス会議(幹事会)(R2.12.22)
第3回富山県道路メンテナンス会議(R3.3.24)
- <石川県> 第1回石川県道路メンテナンス会議(R2.8.3)
第2回石川県道路メンテナンス会議(幹事会)(R2.12.22)
第3回石川県道路メンテナンス会議(R3.3.24)
- <福井県> 第1回福井県道路メンテナンス会議(R2.7.20)
- <新潟県> 第1回新潟県道路メンテナンス会議(R2.7.29)
第2回新潟県道路メンテナンス会議(R2.12.24)
第3回新潟県道路メンテナンス会議(R3.3.10)



出典：北陸地方整備局、近畿地方整備局

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

2. いきいきふるさと・農山漁村活性化PJ (1/2)

農山漁村で安心して暮らせる環境づくりを進めるため、農林漁業が健全に育まれることを基本とし、福祉サービス充実等、集落機能の再生・維持・強化、里地里山や里海の保全と林業の成長産業化、野生鳥獣の被害防止対策の強化による農山漁村の活性化を推進する。
また、都市と農山漁村との交流拡大や未利用資源の利活用、農林水産業への新規就業を促進し、農山漁村地域の経済の活性化を図る。

【計画の具体的取組項目】

(1) 農山漁村の活性化

【モニタリング指標】

モニタリング指標：農業生産関連事業の事業体数

北陸圏における2019年度(令和元年度)の農業生産関連事業の事業体数は、2018年度(平成30年度)と比較して約21.5%増加している。

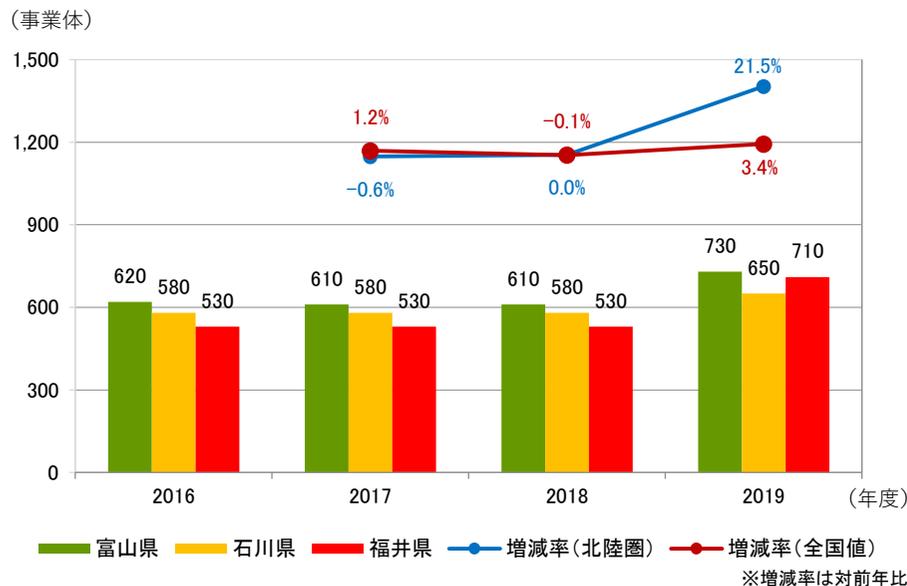


図2-1 北陸圏 農業生産関連事業の事業体数 (2021年8月末時点の公表データ)

【令和2年度の主な取組】

- ◆「ふるさと学びの森」の全県展開【福井県】
 - ・ふるさと学びの森設置・登録団体の活動(福井県設置：2ヶ所、イベント企画数：5回、登録団体：34ヶ所、イベント実施回数：225回)
- ◆いしかわ農村ボランティア【石川県】
- ◆鳥獣被害防止措置法及び関連対策等を通じ、被害防止に向けた取組への指導、助言【北陸農政局】
 - ・鳥獣被害防止特措法に基づく被害防止計画作成及び鳥獣被害対策実施隊設置市町村数(被害防止計画作成：50市町村(富山県14、石川県19、福井県17))
 - ・鳥獣被害対策実施隊設置：50市町村(富山県14、石川県19、福井県17))

取り組み事例：いしかわ農村ボランティア【石川県】

石川県では、農村でボランティアをしていただける県民や企業、大学を「農村役立ち隊」、ボランティアの受入を希望する集落を「受け入れ隊」として登録し、「農村役立ち隊」と「受け入れ隊」との協働活動を通じて、元気な里山づくりを推進している。

- 令和2年実績
 - ・受入地区数：13地区
 - ・活動回数：20回
 - ・年間延べ参加者数：373名

[令和2年実施の様子]



出典：いしかわ農村ボランティア、石川県農林水産部里山振興室

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

2. いきいきふるさと・農山漁村活性化PJ (2/2)

【計画の具体的取組項目】

(2) 都市と農山漁村の地域間交流と連携の促進による地域経済の活性化

【モニタリング指標】

モニタリング指標：農業産出額

北陸圏における2019年(令和元年)の農業産出額は、2018年(平成30年)と比較して約0.4%増加でほぼ前年と同程度である。

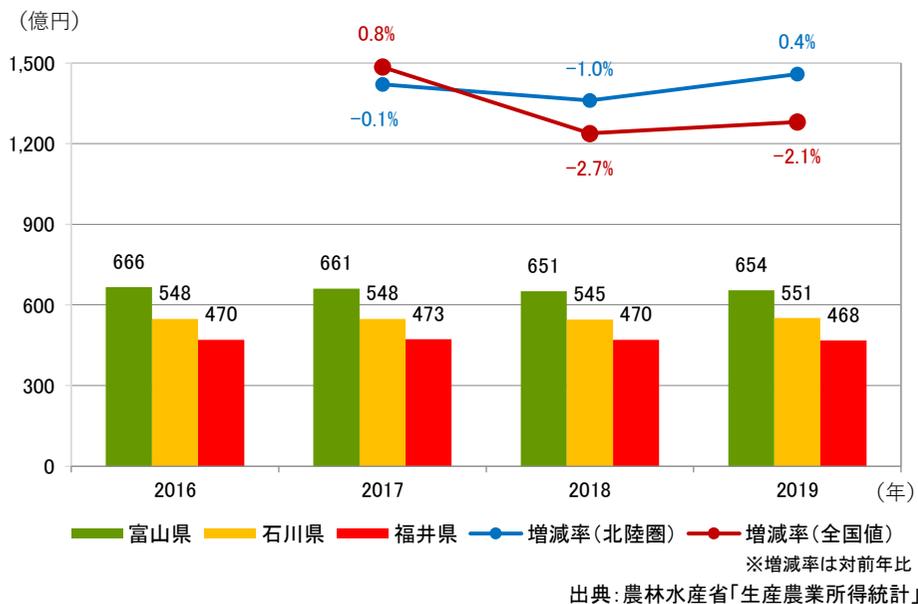


図2-2 北陸圏 農業産出額 (2021年8月末時点の公表データ)

【令和2年度の主な取組】

- ◆グリーンツーリズムの推進【富山県】
 - ・「とやま帰農塾」を県内3市町で開催(8講座、2泊3日(1泊2日)、53名参加) ※オンラインでの開催を含む
- ◆農泊推進対策【北陸農政局】
 - ・農山漁村振興交付金(農泊推進対策)により支援
 - ・富山県：6団体、石川県：5団体、福井県：7団体
- ◆LED等を利用した屋内の大規模園芸設備等による企業的園芸を支援(植物工場立地促進事業)【福井県】
 - ・植物工場立地促進事業：農業参入を検討している企業の誘致に向け、展示会への出展(1回)を実施
 - ・本事業への応募計画の審査・認定

取組事例：グリーンツーリズムの推進【富山県】

○「とやま帰農塾」の開催

「とやま帰農塾」は、富山県の農山漁村で地元の方と一緒に過ごす田舎暮らし体験プログラムで、植え付けや収穫、草取りなど、その時季の地元特産物の農作業のほか、地元の方と一緒にとれたての農産物で地元の料理を作って食べるなどの体験を実施している。



▶ 令和2年実績
・8講座、2泊3日(1泊2日)、
53名参加
※オンラインでの開催を含む。

出典：グリーンツーリズムとやまホームページ とやま帰農塾、NPO法人グリーンツーリズムとやま

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

3. 防災技術・地域コミュニティを活かした北陸防災力強化PJ (1/2)

北陸圏が抱える厳しい自然条件や地球温暖化にともなう気候変動、異常気象の増加等の災害要因に対する防災力を強化するため、降積雪・波浪・風水害・土砂災害・日本海沿岸域を震源とする地震・火山への対策に取り組むとともに、災害リスクの評価・共有を行う。また、これまでに培った防災経験や知恵、地域コミュニティを活かした地域防災体制の強化に取り組む。

【計画の具体的取組項目】

(1) 防災技術の蓄積を活かした災害に強い地域づくり

【令和2年度の主な取組】

◆ ボランティアサポートプログラム（歩道除雪）の推進【北陸地方整備局】

◆ 九頭竜川改修事業の推進【近畿地方整備局、福井県】

- ・ 九頭竜川・北川大規模氾濫減災協議会を開催（第6回：R2.5月）
- ・ 九頭竜川・北川洪水予報連絡会を開催（R2.6月）
- ・ 情報伝達演習（洪水対応演習）を実施（R2.4月）
- ・ 九頭竜川改修事業により、流下能力対策・浸透対策を継続実施

◆ 流域治水プロジェクトに関する協議会等の開催

【北陸地方整備局、近畿地方整備局】

- ・ 荒川（下流域）流域治水協議会の開催（2回）
- ・ 阿賀野川（阿賀川）流域治水協議会の開催（3回）
- ・ 阿賀野川（阿賀野川）流域治水会議の開催（2回）
- ・ 信濃川（信濃川上流）流域治水協議会の開催（1回）
- ・ 信濃川（信濃川中流）流域治水協議会の開催（2回）
- ・ 信濃川（信濃川下流）流域治水協議会の開催（2回）
- ・ 関川・姫川流域治水協議会の開催（2回）
- ・ 黒部川流域治水協議会の開催（3回）
- ・ 常願寺川・神通川・庄川及び小矢部川流域治水プロジェクト協議会の開催（2回）
- ・ 手取川・梯川水系流域治水協議会の開催（2回）
- ・ 九頭竜川流域治水協議会の開催（4回）
- ・ 北川流域治水協議会の開催（4回）

◆ 手取川水系直轄砂防事業【北陸地方整備局】

- ・ 手取川水系直轄砂防事業（柳谷中流砂防堰堤群等）の推進

◆ 伏木富山港の耐震強化岸壁の整備【北陸地方整備局】

- ・ 伏木富山港富山地区において、耐震強化岸壁の整備を推進

◆ 石川県土砂災害情報システム（SABOアイ）【石川県】

- ・ 土砂災害情報システム「SABOアイ」を継続運用（R2年アクセス数：137,721件）

◆ 北陸地域港湾の広域事業継続計画を整備【北陸地方整備局】

- ・ 令和2年度広域港湾BCP訓練（情報伝達訓練）の実施（R2.11）
- ・ 北陸地域港湾の事業継続計画協議会の開催（R3.1）

取組事例：流域治水プロジェクトに関する協議会等の開催【北陸地方整備局】

○ 手取川・梯川水系流域治水協議会の開催

令和元年東日本台風をはじめとした近年頻発している激甚な水害や気候変動による今後の降雨量の増大と水害の激甚化・頻発化に備えるため、集水域から氾濫域にわたる流域全体のあらゆる関係者が協働して、流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進する必要がある。

このため、手取川・梯川水系流域治水協議会を設立し、河川整備計画に基づく河川整備、大規模氾濫減災協議会の取組方針に基づく避難や水防等の取組を十分に共有するとともに、被害の防止・軽減に資する流域における対策を総合的に検討の上、密接な連携体制を構築するための協議等を行っている。

<第1回協議会の開催概要>

- ・ 開催日時：令和2年9月14日（月）10:30～
- ・ 場所：川北町文化センター 2階大ホール
- ・ 議事次第：1. 開会
2. 議事
(1) 流域治水へ向けた新たな取り組み
(2) 協議会設立趣旨、協議会規約(案)
(3) 手取川・梯川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ(案)】
- 3. 閉会

<第2回協議会の開催概要>

- ・ 開催日時：令和3年3月10日（水）13:30～
- ・ 場所：能美市防災センター 5階研修室
- ・ 議事次第：1. 開会
2. 議事
(1) 協議会規約改正(案)
(2) 手取川・梯川水系流域治水プロジェクト策定について
(3) 今後の予定について
- 3. 閉会

【令和2年度第2回協議会の様子】



出典：手取川・梯川水系流域治水協議会、北陸地方整備局 金沢河川国道事務所

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

3. 防災技術・地域コミュニティを活かした北陸防災力強化PJ (2/2)

【計画の具体的取組項目】

(2) 地域コミュニティを活かした地域防災体制の強化

【モニタリング指標】

モニタリング指標: 自主防災組織カバー率(%)

北陸3県の自主防災組織活動カバー率は年々増加傾向にあり、全国的にも同様な傾向が伺える。

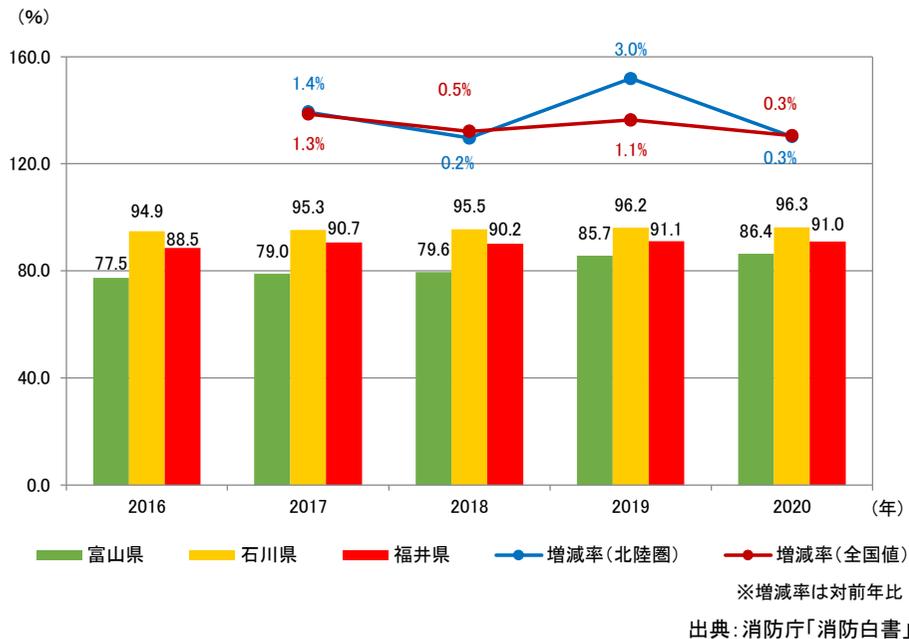


図3-1 北陸圏 自主防災組織カバー率の推移 (2021年8月末時点の公表データ)

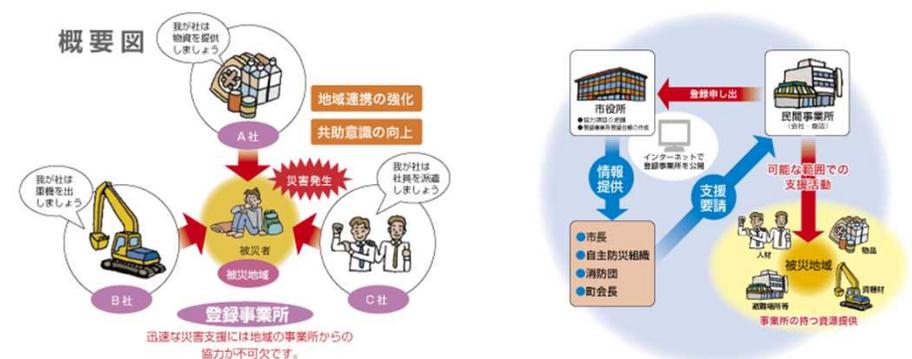
【令和2年度の主な取組】

- ◆ **かなざわ災害時等協力事業所登録制度【金沢市】**
 - ・令和2年度登録数：317事業者、402事業所
- ◆ **自主防災組織の充実等**
 - 【富山県】
 - ・自主防災組織化研修：1地区(20名)
 - ・自主防災組織リーダー研修会：4地区(179名)
 - ・自主防災組織資機材整備事業補助金対象：58組織
 - 【富山市】
 - ・自主防災組織活動事業補助金(一般資機材)：対象24組織
 - ・地域の防災リーダー研修会：47名
- ◆ **災害ボランティアコーディネーター養成研修会の実施【石川県】**
 - ・令和2年度災害ボランティアコーディネーター養成者数：45人

取組事例：かなざわ災害時等協力事業所登録制度【金沢市】

金沢市では災害時において地域で助け合う「共助」を重要な地域防災力と位置づけて、事業者も地域の一員として、災害が発生した直後から、ボランティア精神を発揮し、出来る範囲で防災活動に協力して頂くことを目的とした制度を創設している。登録内容としては、人材協力や物品協力、避難所施設の提供など、事業者がボランティアとして出来ることを登録してもらう。

➢ 令和2年度登録数：317事業者、402事業所



出典: かなざわ災害時等協力事業所登録制度、金沢市危機管理課

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

4. 北陸の多彩な自然環境保全PJ (1/2)

北陸圏のシンボルである立山・黒部や白山等の豊かな自然環境や豊富な水を育む水源涵養機能を保全していくため、山岳地域の自然環境の保全や流域圏全体の連携による水系一貫における水循環の維持又は回復、さらには、これら自然環境保全に関する意識啓発を推進する。また、北陸の美しい白砂青松の海岸環境を次世代に継承していくため、砂浜の減少等が進む海岸景観の保全・再生や海辺に親しめる海岸づくり、貴重な湿地、島しょ等が育む渡り鳥等の野生生物の生態系ネットワークの保全を推進する。さらに、昨今、地球温暖化の進行による生態系等への影響が危惧される中で、日本海沿岸地域にあっても顕在化する大型クラゲ、黄砂、酸性雨等の環境問題解決への取り組みを強化する。

【計画の具体的取組項目】

(1) 立山・黒部や白山等山岳地域の自然環境保全

【モニタリング指標】

モニタリング指標：自然ふれあい行事の開催件数と参加人数(件、人)

白山国立公園では自然ふれあい行事を継続的に開催しており、2019年(令和元年)は2件(参加人数：21人)の行事を開催している。

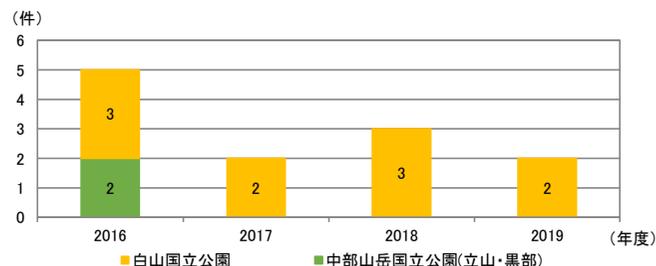


図4-1 北陸圏 自然ふれあい行事の開催件数の推移

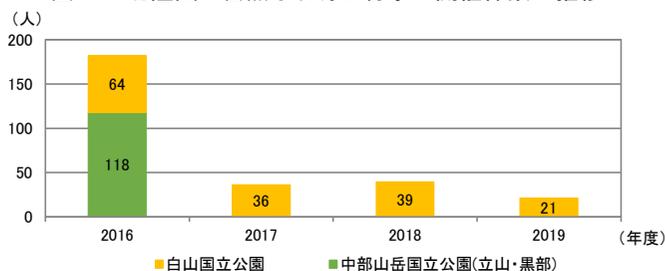


図4-2 北陸圏 自然ふれあい行事の参加人数の推移

出典：中部地方環境事務所
(2021年8月末時点のデータ)

【令和2年度の主な取組】

◆立山・黒部地域の環境保全の取組【富山県】

- ・「とやまの山岳環境整備ボランティア」を募集し、登山道の安全対策や外来植物除去活動の継続的な実施
- ・立山におけるバスの排出ガス規制の継続的な実施

◆希少野生動植物の保護対策事業の推進【富山県、石川県、岐阜県、長野県、中部森林管理局】

取り組み事例：希少野生動植物の保護対策事業の推進【中部森林管理局】

北アルプスの国有林において、希少な高山植物等の保護や山岳環境の美化を目的としたパトロール活動を継続して実施している。このパトロール活動は、昭和47年から毎年夏山繁忙期に行っており、富山森林管理署、地元自治体、山小屋関係者、運輸事業者等で構成する「国有林野保護管理協議会」がパトロール員を公募し、「立山」、「薬師岳・雲ノ平」、「黒部」、「白馬・朝日・北又」の4地区において実施してきた。

例年、4地区18名程度で活動しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により山小屋が休業・営業縮小していることもあり、立山地区室堂班4名での実施となった。

【主な活動内容】

- ・高山植物等保護のための巡視
- ・高山植物等保護のための立入禁止柵（グリーンロープ）の設置、改修
- ・ゴミ回収等の美化活動



出典：令和2年度高山植物等保護パトロール活動報告、中部森林管理局

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

4. 北陸の多彩な自然環境保全PJ (2/2)

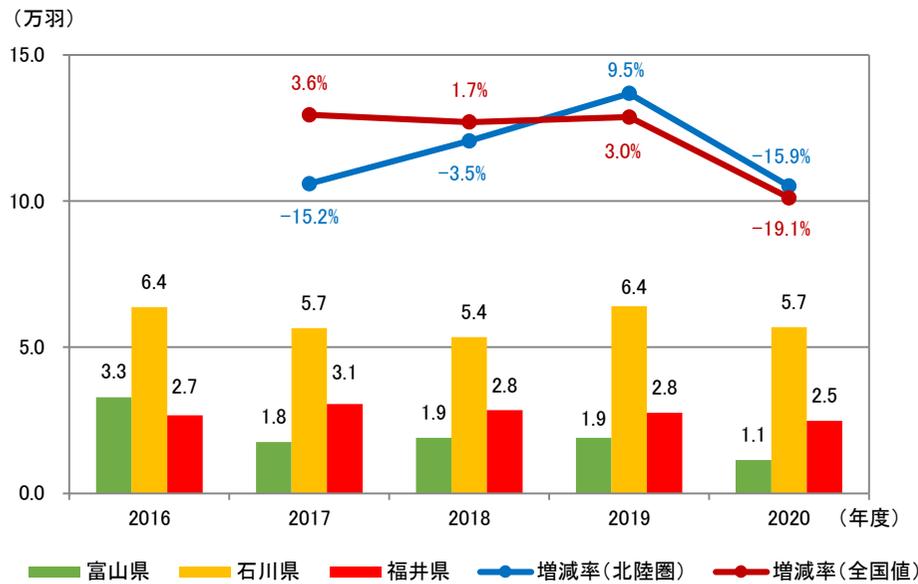
【計画の具体的取組項目】

(2) 日本海沿岸地域の環境保全

【モニタリング指標】

モニタリング指標: 各県別の渡り鳥の飛来数(羽)

北陸圏における2020年度(令和2年度)の渡り鳥の飛来数は、2019年度(令和元年度)と比較して約15.9%減少している。北陸圏のなかでは、石川県の飛来数が多くなっている。



出典: 環境省「ガンカモ類の生息調査」

図4-3 北陸圏 渡り鳥の飛来数の推移 (2021年8月末時点の公表データ)

【令和2年度の主な取組】

- ◆石川海岸直轄海岸保全施設整備事業【北陸地方整備局】
 - ・石川海岸侵食・越波対策の推進(小松工区・片山津工区)
- ◆生物多様性保全に関する各種施策の推進(三方五湖自然再生協議会外来生物等対策部会)【中部地方環境事務所、福井県、若狭町、美浜町】
 - ・特定外来種等駆除数: 806個体
 - ・ヒシ刈り取り面積: 1,096,000㎡
- ◆大型クラゲ対策の強化【福井県】
 - ・調査船による洋上調査(大型クラゲ目視調査: 2回、大型クラゲトロール調査: 2回、海洋観測(流向流速・水温塩分): 2回)
 - ・情報発信(ファックスおよびホームページ: 5回)
 - ・係留系観測: 3海域(鷹巣、小樟: 5月~11月、常神: 5月~10月)

取り組み事例: 生物多様性保全に関する各種施策の推進
(三方五湖自然再生協議会外来生物等対策部会)
【中部地方環境事務所、福井県、若狭町、美浜町】

福井県の三方五湖周辺流域とその周辺地域において、「三方五湖自然再生協議会」を設立し、多様な主体による自然再生を実現するための取り組みを実施している。

- 令和2年実績
 - ・特定外来種等駆除数: 806個体
 - ・ヒシ刈り取り面積: 1,096,000㎡

[アカミミガメの一斉捕獲]



出典: 三方五湖ニュースレターNo.23.福井県自然環境課

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

5. 北陸発エネルギー技術、環境技術拠点形成PJ

北陸圏における原子力及びエネルギー分野の最先端技術の集積を活かして、他分野との連携や産学官連携等によるがん治療、次世代エネルギー、新品種開発等に活用される最先端エネルギー分野の新技术開発と新事業の創出に取り組む。また、先駆的なモデルとなる環境にやさしい暮らしの普及・定着を推進するとともに、エネルギー技術と環境技術の集積拠点を形成する。

【計画の具体的取組項目】

最先端エネルギー分野の新技术開発と新事業の創出

モニタリング指標①: エネルギー起源CO2排出量

(人口1人当たりエネルギー起源CO2排出量)

北陸圏の増減率は2016年(平成28年度)以降、概ね減少傾向であり、全国平均もほぼ同様な傾向が伺える。



図5-1
北陸圏 エネルギー起源CO2排出量(人口1人当たりエネルギー起源CO2排出量)の推移

出典: 資源エネルギー庁「都道府県別エネルギー消費統計」(2018年度は暫定値)

※増減率は対前年比
(2021年8月末時点の公表データ)

モニタリング指標②: 再生可能エネルギー設備認定状況

北陸圏における2020年度(令和2年度)の再生可能エネルギー設備認定状況は、2019年度(令和元年度)と比較して約6.2%増加している。

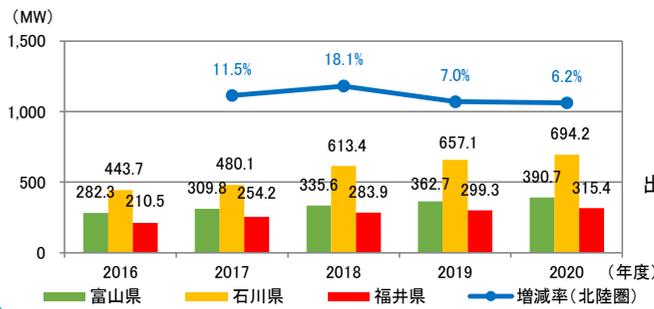


図5-2
北陸圏 再生可能エネルギー設備認定状況(導入容量)の推移

出典: 資源エネルギー庁「都道府県別再生可能エネルギー設備認定状況」(「新規認定分」と「移行認定分」の合計値)

※増減率は対前年比
(2021年8月末時点の公表データ)

【令和2年度の主な取組】

- ◆ 福井県若狭湾エネルギー研究センターにおける先端的な研究の推進【福井県、(公財)若狭湾エネルギー研究センター】
 - ・ 県内外の大学や研究機関、企業との共同研究数: 62件
 - ・ 原子力・エネルギー、環境関連技術分野での新たな製品化数: 2件
- ◆ 農業用水等を利用した小水力発電の推進【富山県】
 - ・ 常西幹線発電所の運転開始
- ◆ いしかわモデルのメタン発酵技術の推進【石川県】
 - ・ 県HPでの公開
 - ・ 下水道新技术セミナーで講演 (WEB) (講演参加者: 約500人)

取組み事例: 農業用水等を利用した小水力発電の推進【富山県】

○ 常西幹線発電所の運転開始

富山県では、包蔵水力が全国第2位という恵まれた環境を活かし、全国に先駆けて、農業用水を利用した小水力発電施設の整備を積極的に進めてきた。

これまでに整備された農業用水を利用した小水力発電施設は32か所で全国トップクラスであり、これらの施設による年間発生電力量は、一般家庭約2万4千世帯分の消費電力に相当する7千1百万kWhとなっている。(R3.3月)

県内の農業用水を利用した発電施設の多くは、農業用水路を管理する土地改良区が所有しており、この施設により得られる売電収入を土地改良施設の維持管理費に充当することで、農家負担の軽減を図るとともに、カーボンニュートラルに資する再生可能エネルギーの導入拡大を推進している。

令和2年7月には、平成27年から整備を進めてきた「常西幹線発電所」が運転を開始している。

- 発電所位置: 富山市流杉地内
- 用水路名: 「常西幹線用水路」
(常西用水土地改良区)
- 最大出力: 460kW
(年間発電電力量: 約259万kWh)



2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

6. 東アジアに展開する日本海中枢圏域形成PJ (1/2)

北陸圏の有する三大都市圏や環日本海諸国を始めとする東アジアに対する地理的な優位性を活かして、日本海側の産業・物流の中枢拠点機能を強化するため、地域レベルでは日本海沿岸地域有数のものづくり集積を活かした産業の国際競争力の強化、三大都市圏や環日本海諸国レベルでは近接性を活かした東アジア等の諸外国に展開する国際物流機能の強化を推進する。

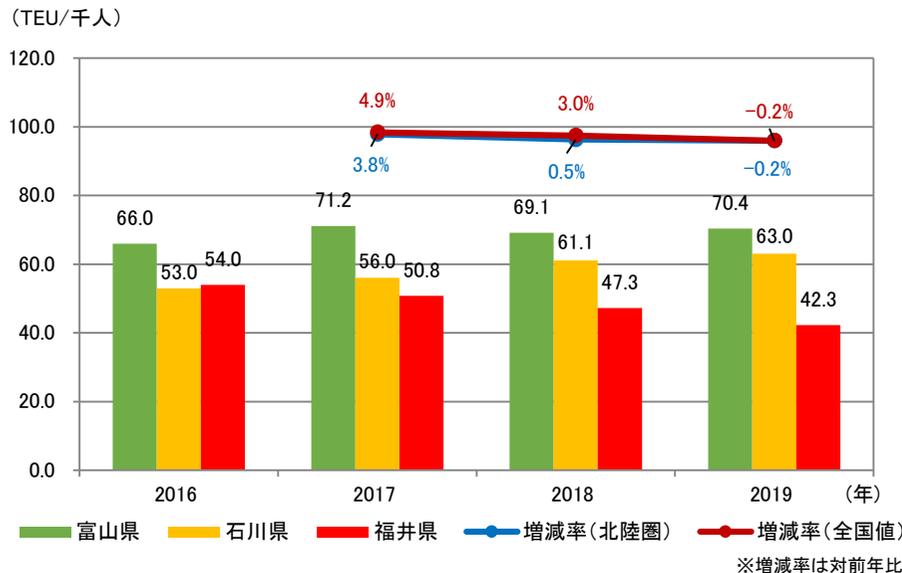
【計画の具体的取組項目】

- (1) 日本海沿岸地域有数のものづくり集積を活かした産業の国際競争力の強化

【モニタリング指標】

モニタリング指標: モニタリング指標: 外貿コンテナ取扱個数
(人口千人当たり外貿コンテナ取扱個数)

北陸圏の港湾における2019年(令和元年)の外貿コンテナ取扱個数は、2018年(平成30年)と比較して約0.2%減少で、前年とほぼ同程度である。



出典: 国土交通省「港湾統計」総務省「人口推計」

図6-1 北陸圏 外貿コンテナ取扱個数(人口千人当たり外貿コンテナ取扱個数)の推移

(2021年8月末時点の公表データ)

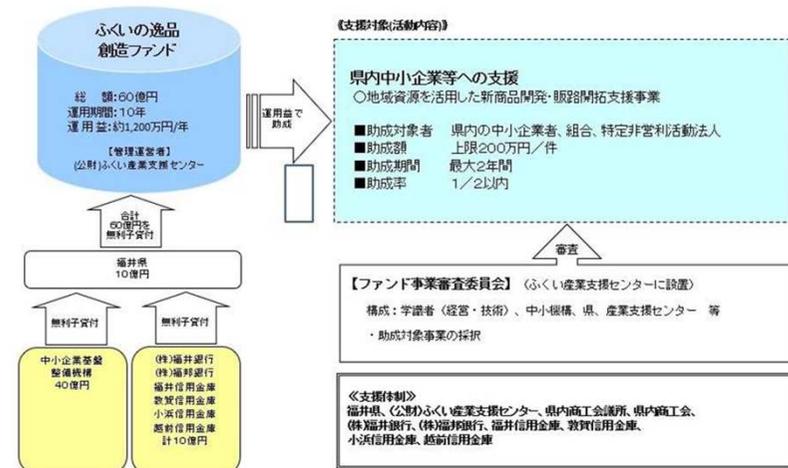
【令和2年度の主な取組】

- ◆「ふくいの逸品創造ファンド」による地域貢献産業の創出【(公財)ふくい産業支援センター】
 - ・助成件数 商品開発・販路開拓支援: 9件
- ◆モノ作り基盤技術の高度化支援【中部経済産業局、近畿経済産業局】
 - ・令和2年度における戦略的基盤技術高度化支援事業の採択件数7件(富山県2件、福井県5件)

取り組み事例: ふくいの逸品創造ファンドによる地域貢献産業の創出【(公財)ふくい産業支援センター】

福井県では、地域の産業技術、農林水産物、観光資源等の「ふくいの強み」を活かした新商品・新サービス(ふくいの逸品)を開発し、県内外の顧客を獲得する取組を推進するため、中小機構、県、県内金融機関による総額60億円の「ふくいの逸品創造ファンド」(基金)を創設している。

➢R2年度実績: 商品開発支援9件



出典: 地域資源を活かした商品開発等に対する助成金(逸品創造ファンド事業等)について、福井県

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

6. 東アジアに展開する日本海中枢圏域形成PJ (2/2)

【計画の具体的取組項目】

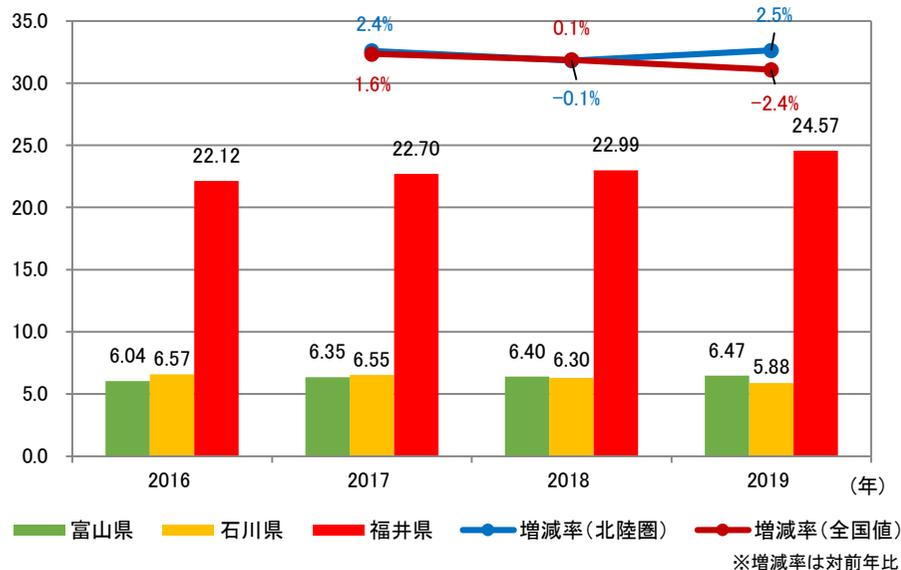
(2) 三大都市圏との近接性を活かし、環日本海諸国に展開する国際物流機能の強化と企業誘致の一体的な推進

【モニタリング指標】

モニタリング指標：港湾の取扱貨物量
(人口1人当たり港湾の取扱貨物量)

北陸圏の港湾における2019年(令和元年)の取扱貨物量は、2018年(平成30年)と比較して約2.5%増加している。

(トン/人)



出典：国土交通省「港湾統計」総務省「人口推計」

図6-2 北陸圏 港湾の取扱貨物量 (人口1人当たり港湾の取扱貨物量) の推移

(2021年8月末時点の公表データ)

【令和2年度の主な取組】

- ◆インセンティブ等を活用した積極的なポートセールスによる港の利用促進【富山県、石川県、福井県】
 - ・コンテナ貨物・小口混載貨物・トライアル輸送等に対する支援制度の充実化
 - ・岐阜県等との連携によるポートセールス(海外バイヤー招へい商談会)
 - ・港利用促進セミナー、現地視察会開催
- ◆金沢港(大野地区)国際物流ターミナルの整備【北陸地方整備局、石川県】
- ◆敦賀港(鞠山南地区)国際物流ターミナルの整備【北陸地方整備局、福井県】
- ◆七尾港(大田地区)国際物流ターミナルの整備【北陸地方整備局、石川県】
 - ・国際物流ターミナル整備事業の推進
 - ・ふ頭用地の整備
- ◆伏木富山港(伏木地区・新湊地区)(臨港道路の整備)【富山県】
 - ・伏木地区：臨港道路伏木外港1号線の改良整備
 - ・新湊地区：臨港道路北線新港大橋の改良整備

取り組み事例：敦賀港(鞠山南地区)国際物流ターミナルの整備
【北陸地方整備局、福井県】

敦賀港は北海道苫小牧港や福岡県博多港と日本海側定期航路によって結ばれ、関西中京を背後圏とする物流拠点となっている。

鞠山北地区の非効率な荷役の解消等に対応するため、鞠山南地区の国際物流ターミナルの整備を実施している。

令和2年度は、岸壁の整備を推進している。



出典：北陸地方整備局

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

7. 食料供給力増強・食の北陸ブランド展開PJ (1/2)

北陸圏の豊かな自然環境と水資源が育む、豊かで多様な農林水産資源や食文化を活かして、富山・加賀・福井平野を中心とした高生産性優良農業地域において、担い手の育成と担い手への農地の利用集積・集約化を図るとともに、農業水利施設の適切な保管理、計画的かつ効率的な補修、更新等による施設の長寿命化を行うなど、良好な営農条件の確保により、圏域の食料供給力を強化する。また、消費者に信頼される高品質な「北陸ブランド」を構築し、知名度の向上や食関連産業を強化するとともに、国内外に展開する流通・販路網の開拓・拡充の促進さらには、農水産物の圏域内における地産地消の推進による自給率の向上を図る。

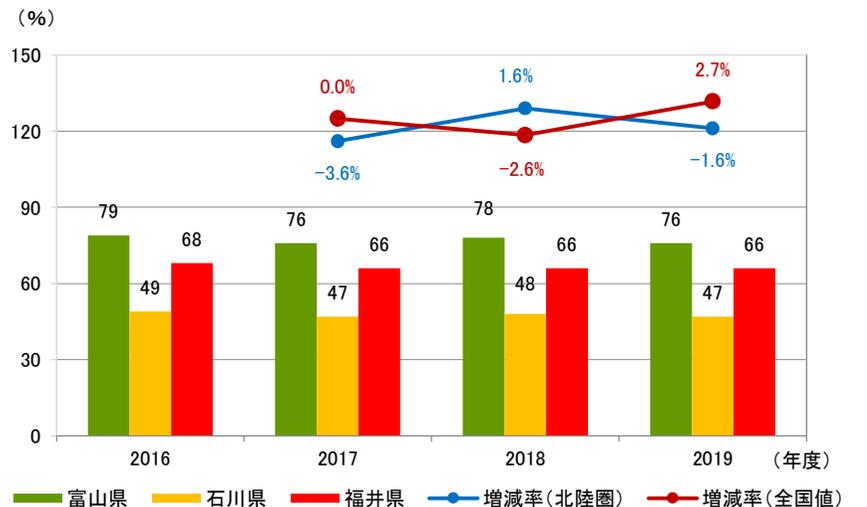
【計画の具体的取組項目】

(1) 食料供給力の強化

【モニタリング指標】

モニタリング指標：食料自給率(カロリーベース：%)

北陸圏における2019年度(令和元年度)の食料自給率は、2018年度(平成30年度)と比較して約1.6%減少している。



出典：農林水産省「都道府県別食料自給率の推移(カロリーベース)」(2019年は概算値)

図7-1 北陸圏 食料自給率(カロリーベース：%)の推移

(2021年8月末時点の公表データ)

【令和2年度の主な取組】

- ◆担い手への農地集積・集約化を促進するための支援(農地中間管理事業等)【北陸農政局】
 - ・担い手や県、市町村、農業委員会などの関係機関に積極的に働きかけ、農地中間管理事業を柱とした担い手への農地集積を推進
- ◆農業水利施設の保管理・整備を推進【北陸農政局】
 - ・国営かんがい排水事業(用水改良事業)
 - 富山県(1地区)：早月川地区 石川県(1地区)：手取川地区(排水改良事業)
 - 富山県(1地区)：射水平野地区
 - ・国営農地再編整備事業 富山県(1地区)：水橋地区
 - ・国営総合農地防災事業 石川県(1地区)：河北潟周辺地区

取り組み事例：農業水利施設の保管理・整備を推進【北陸農政局】

排水機場、幹線排水路の改修及び河北潟放水路防潮水門の耐震化対策を行い、併せて関連事業で排水機場を改修することで、農業用排水施設の排水機能を回復し、湛水被害の軽減を図ることにより、農業生産の維持及び農業経営の安定を図り、もって国土の保全に資するものである。

<事業概要>

- 受益面積：3,145ha(水田 1,948ha, 畑 1,197ha)
- 関係市町：金沢市、かほく市、河北郡津幡町及び内灘町
- 予定工期：令和元年度～令和13年度(13ヵ年)
- 事業費：390億円
- 主要工事：防潮水門1箇所、排水機場9箇所、幹線排水路3.2km、水管理施設一式
- ※その他関連事業により、排水機場4箇所を改修予定

[河北潟放水路防潮水門]



出典：河北潟周辺農地防災事業所事業概要,北陸農政局

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

7. 食料供給力増強・食の北陸ブランド展開PJ (2/2)

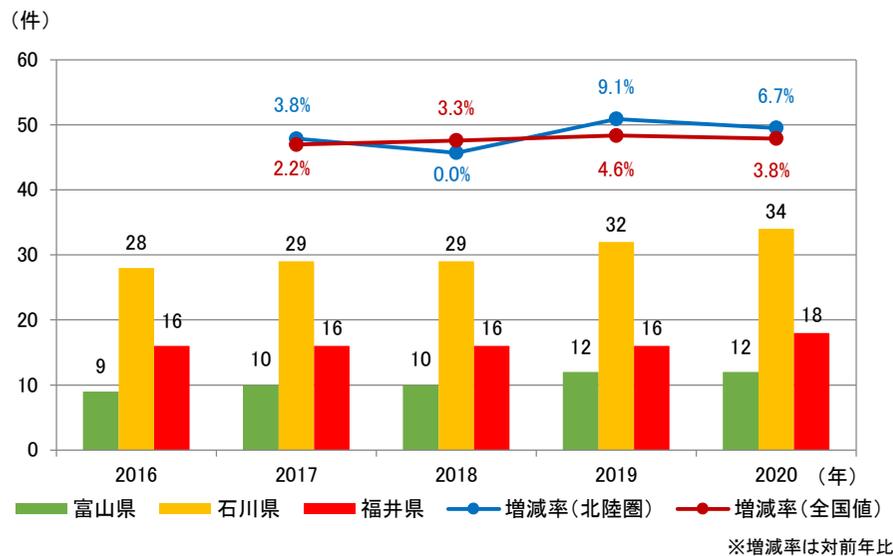
【計画の具体的取組項目】

(2) 「北陸ブランド」構築と国内外への流通・販路網の開拓・拡充

【モニタリング指標】

モニタリング指標：地域団体商標登録数

北陸圏では、一定の割合で地域団体商標登録数が増加している。北陸圏のなかでは石川県が最も地域団体商標登録数が多い。



出典：特許庁「特許庁行政年次報告書」

図7-2 北陸圏 地域団体商標登録数の推移 (2021年8月末時点の公表データ)

【令和2年度の主な取組】

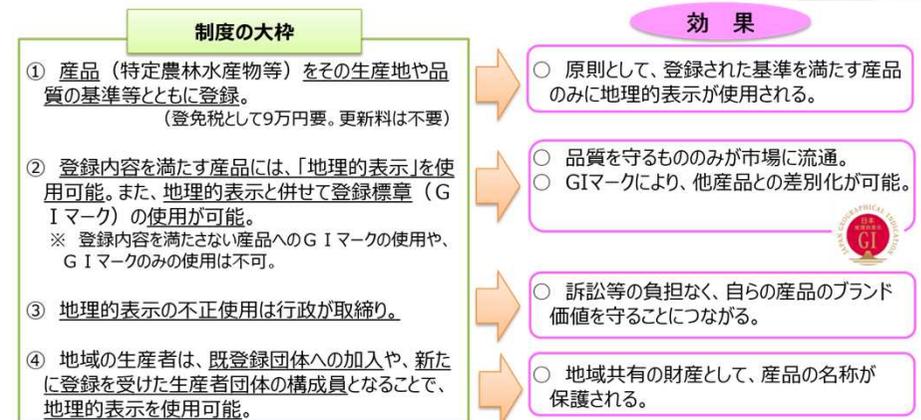
- ◆地理的表示保護制度（G I 制度）の推進【北陸農政局】
 - ・北陸地域におけるG I 登録産品（令和2年度）：富山干柿（富山県）
- ◆6次産業化に取り組む農林漁業者への支援【北陸農政局】
 - ・6次産業化事業計画認定件数（令和2年度）：2件（富山県2件）
- ◆地産地消等優良事列表彰（地産地消及び国産農産物・食品の消費拡大の取組み等への表彰及び優良事例紹介）【北陸農政局】
 - ・地産地消等優良活動表彰（令和2年度）：全国表彰2件（富山1件、石川1件）

取組み事例：地理的表示保護制度（G I 制度）の推進【北陸農政局】

「地理的表示保護制度」は、これらの産品の名称（地理的表示）を知的財産として登録し、保護する制度となっている。

農林水産省は、地理的表示保護制度の導入を通じて、それらの生産業者の利益の保護を図ると同時に、農林水産業や関連産業の発展、需要者の利益を図るよう取組を進めている。

➤北陸地域におけるG I 登録産品（R2年度）富山干柿（富山県）



出典：地理的表示(GI)保護制度.農林水産省
地理的表示保護制度(GI)登録産品.北陸農政局

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

8. 強靱な国土づくりに貢献する広域的な防災体制の構築PJ

太平洋側で危惧される首都直下地震や南海トラフ地震等の大規模災害時のバックアップ機能を担う広域的な防災支援体制の構築を推進する。

【令和2年度の主な取組】

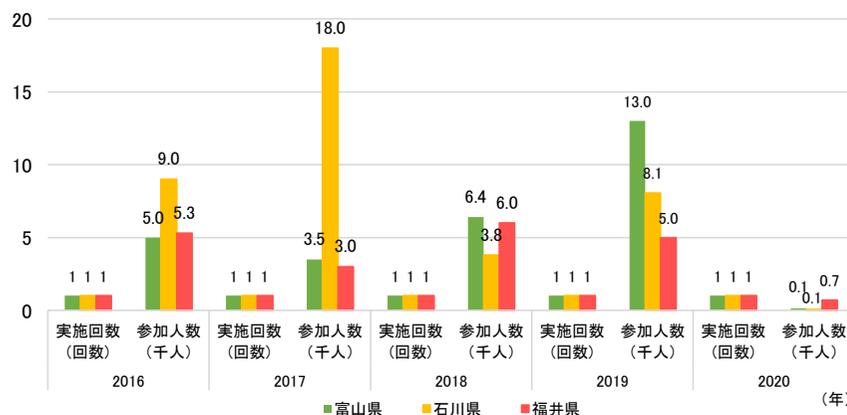
- ◆多機関と連携した防災訓練【富山県、石川県、福井県】
- ◆広域バックアップ専門部会（経済団体、物流団体、港湾関連会社、学識経験者、地方公共団体、国の地方支分部局等）【北陸地方整備局】
 - ・首都直下地震に対応したオンライン代替輸送訓練（R3.2）
 - ・南海トラフ巨大地震に対応したオンライン代替輸送訓練（R3.2）
- ◆東海北陸自動車道の早期全線4車線化の推進【北陸地方整備局、富山県、岐阜県】

【モニタリング指標】

モニタリング指標：広域的な防災訓練を実施した回数、参加人数の推移

北陸圏における広域的な防災訓練の実績は、下図の通りとなっている。また、2020年（令和2年）の実施状況は下記の通りとなっている。

- ・富山県では、滑川市にて実施され、約140人が参加している。
- ・石川県では、金沢市にて実施され、約80人が参加している。
- ・福井県では、敦賀市にて実施され、約700人が参加している。



出典：北陸地方整備局「実施状況把握表」

図8-1 北陸圏 広域的な防災訓練を実施した回数、参加人数の推移
(2021年8月末時点のデータ)

取り組み事例：多機関と連携した防災訓練【福井県、敦賀市】

令和2年11月14日に敦賀市を主会場として、地震や風水害の想定のもと、防災関係機関の連携強化を目的とした実動機関による災害対応訓練に加え、新型コロナウイルス感染症対策を取り入れた「福井県総合防災訓練」が実施された。

なお、当日の訓練の様子を福井県公式YouTubeチャンネルにて動画配信している。

<実施日時・場所>

- 令和2年11月14日（土）7:30～12:00
主会場：粟野スポーツセンター（敦賀市）
サブ会場：黒河地区、愛発地区、古田刈地区、きらめきみなと館、敦賀新港
- 主催：福井県、敦賀市
- 訓練参加機関：消防、警察、自衛隊、海上保安庁、医療機関等 約90機関600名
- 住民参加：避難住民 約100名 粟野スポーツセンター、黒河小学校で実施

<訓練の特徴>

- ・行政と自主防等による避難所での新型コロナウイルス感染症対策訓練
- ・自主防災組織等による救出救助訓練、消防、警察、自衛隊等による土砂埋没・倒壊建物救出訓練
- ・大型旅客船事故に係る新型大型巡視船の救出救助と県内DMAT隊によるトリアージ訓練

[R2年度福井県総合防災訓練の様子]



出典：令和2年度福井県総合防災訓練、福井県

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

9. 高速交通基盤を活かした北陸観光交流圏形成PJ (1/2)

北陸圏の優れた地域資源及び北陸新幹線の開業等により充実する広域交通ネットワークを最大限活用し、国内外観光客の増加による地域活性化を図るため、北陸の各地域の連携強化による満足度の高い魅力ある観光地域づくり、国内外観光客の効果的な誘客拡大を推進する。

【計画の具体的取組項目】

(1) 地域の連携強化による満足度の高い魅力ある観光地域づくり

【モニタリング指標】

モニタリング指標: 宿泊者数(人口1人あたり延べ宿泊者数)

北陸圏における2019年(令和元年)の人口1人あたり延べ宿泊者数は、2018年(平成30年)と比較して約1.7%増加している。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年(令和2年)は大幅な減少が予想される。

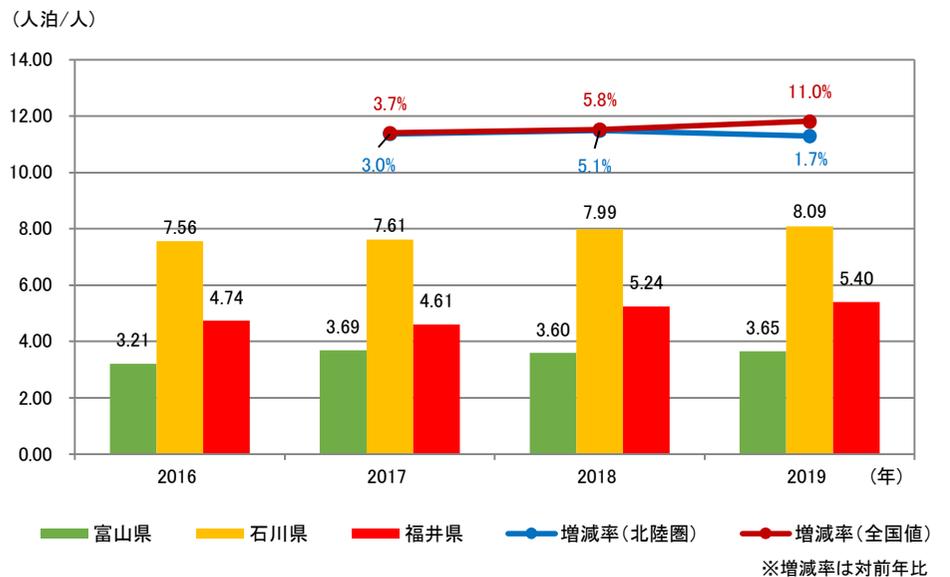


図9-1 北陸圏 宿泊者数(人口1人あたり延べ宿泊者数)の推移

(2021年8月末時点の公表データ)

【令和2年度の主な取組】

- ◆「立山・黒部」の世界文化遺産登録の推進【富山県】
- ◆石川県都市公園の整備(金沢城公園)【石川県】
 - ・金沢城公園第3期整備(計画期間: H27~R3) 鼠多門・鼠多門橋の復元整備完了、石垣の保全対策に着手
- ◆グリーンツーリズムの推進【富山県】
 - ・子ども農山漁村交流プロジェクト推進事業
- ◆観光地域づくり法人(DMO)の活動促進にかかる人材育成【北陸信越運輸局】
 - ・有識者による研修会等、DMOの活動を促進するためのセミナーを実施

取り組み事例: 石川県都市公園の整備(金沢城公園)【石川県】

平成18(2006)年度から平成26(2014)年度までの第二期整備事業では、河北門の復元、いもり堀の水堀化、橋爪門二の門の復元、玉泉院丸庭園の再現などの各整備事業を完成させてきた。

引き続き、城郭としての魅力を高めるため、平成27年12月に策定された第三期整備計画に基づき、平成29年度には、鶴の丸休憩館を整備、令和2年7月には、鼠多門・鼠多門橋の復元整備が完了した。現在、二の丸御殿の復元整備に向けた取り組みを進めている。

[復元整備された鼠多門・鼠多門橋]



出典: 金沢城公園の整備について, 石川県

2. 北陸圏広域地方計画 令和2年度の取り組み

9. 高速交通基盤を活かした北陸観光交流圏形成PJ (2/2)

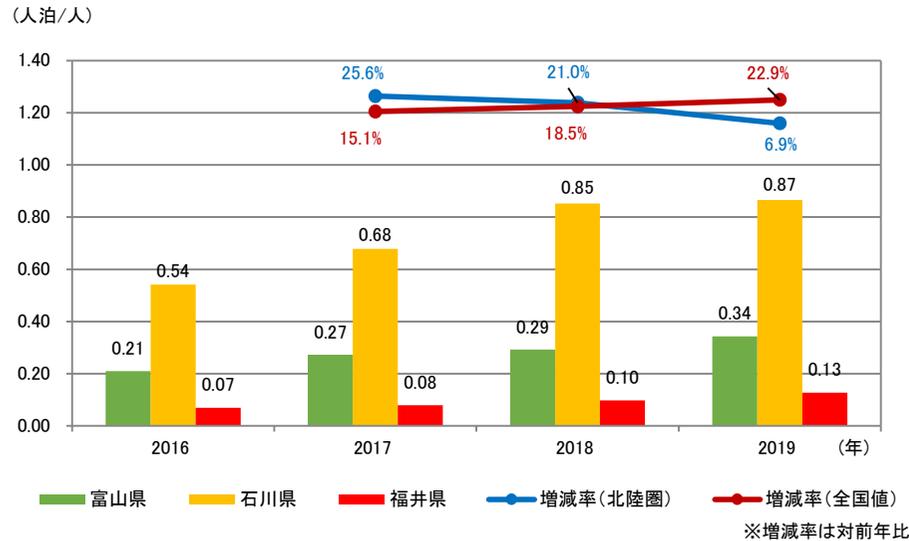
【計画の具体的取組項目】

(2) 国内外観光客の戦略的な誘客拡大

【モニタリング指標】

モニタリング指標:外国人宿泊者数
(人口1人あたり延べ外国人宿泊者数)

北陸圏における2019年(令和元年)の人口1人あたり延べ外国人宿泊者数は、2018年(平成30年)と比較して約6.9%増加している。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年(令和2年)は大幅な減少が予想される。



出典:観光庁「宿泊旅行統計調査」、総務省「人口推計」

図9-2 北陸圏 外国人宿泊者数(人口1人あたり延べ外国人宿泊者数)の推移

(2021年8月末時点の公表データ)

【令和2年度の主な取組】

◆クルーズ船の誘致促進

【富山県】・クルーズ船会社、旅行会社等への誘致活動等の充実 等

【石川県】・クルーズ船の誘致強化と受入体制の整備 等

◆訪日グローバルキャンペーン等に対応したコンテンツ造成事業

【北陸信越運輸局、中部運輸局】

取り組み事例: ナイトタイムエコノミー推進にかかるコンテンツ造成事業
【北陸信越運輸局】

ナイトタイムエコノミーとは、18時から翌朝6時までの活動を指し、地域の状況に応じた夜間の楽しみ方を拡充し、夜ならではの消費活動や魅力創出をすることで、経済効果を高めることを目標としている。

>訪日外国人を対象としたコンテンツ:計11本造成

【造成したコンテンツの例】

富山県西部地区の自然・食資源を活かした新たなナイトタイムコンテンツ造成事業

地域名	コンテンツの名称	概要
氷見市	定置網漁と朝セリ見学+漁師めし	栄養豊かで「天然のいけす」と呼ばれる富山湾で、サステイナブルな(持続可能な)漁業として注目の定置網漁を船上から近所で見学した後、氷見の魚市場に移動してセリを見学。その後、漁師も利用する食堂で、市場直送の魚介を使った朝食を臨場感と共に味わっていただく。
高岡市・砺波市	伝統産業工場見学とマイぐい呑みを使って日本酒やウィスキーと富山の食を堪能	高岡市の伝統産業「高岡銅器」のメーカーで、「曲がる錫の器」が世界的にも有名な「能作」の工場を見学し、実際に金属鍛造を体験して「錫のぐい呑み」を製作。その後、砺波市の「若鶴酒造」にて、日本酒と北陸唯一のウィスキー製造を見学。「若鶴酒造」での富山の旬な食材を活かした夕食と地酒を、錫のぐい呑みとともに堪能していただく。
高岡市	高岡鑄物発祥の地「金屋町」で息づく匠の技と文化を体感	金屋町は高岡市でも最も古い町で、高岡鑄物発祥の地として大いに栄えた。石畳の道と格子造りの古い家並みが見事に調和し、2012年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。四津川製作所が金屋町に古民家を改修しオープンしたホテル「金ノ三寸」に泊まり、富山の旬の食材を活かした食事、伝統工芸を育ててきた風情ある街並み金屋町と山町筋の街並み散策を楽しんでいただく。

出典:ナイトタイムエコノミー推進にかかるコンテンツ造成事業,北陸信越運輸局

【取り組み記載内容の解説】

概要版の見方

(広域連携プロジェクト名)

- ・ 広域連携プロジェクトの概要説明

【計画の具体的取組項目】

- ・ 広域連携プロジェクトの具体的な取組項目名

【モニタリング指標】

モニタリング指標の名称

- ・ 各プロジェクトの進捗状況を検証するため、統計データを用いたモニタリング結果を記載
- ・ なお、モニタリングに用いている指標は、令和3年時点で調査・公表等がされている最新の統計データを使用

【令和2年度の主な取組】

- ・ 各プロジェクトの具体的な取組内容として、詳細版に記載されている各機関が令和2年度に実施した取組の中から抜粋して記載

取り組み事例：(具体的な取組み名) 【実施機関名】

- ・ 各機関で令和2年度に実施した主な取組のうち、代表的な取組事例を紹介